

『二重プロセス理論に基づく総合的な人間行動の理解とその応用に関する実験的研究』

人間科学部 松本安生

1. 共同研究奨励金グループ名

二重プロセス理論に基づく総合的な人間行動の理解とその応用に関する実験的研究

～学際的学問分野の開拓と現代社会問題解決のための政策分析の実践～

2. 活動内容

①メンバー：

松本安生（人間科学部 人間科学科 准教授）

三星宗雄（人間科学部 教授）

坪井雅史（外国語学部 准教授）

渡辺照洋（経済学部 教授）

柴田直子（法学部 准教授）

②今年度の研究内容

二重プロセス理論に基づく人間行動モデルをもとに、「喫煙リスク」と「温暖化リスク」というタイプが異なる2つのリスク問題を事例として、現代社会における問題解決のための有用な知見を得ることを目的とした以下の実証的研究を行った。

①累積的な喫煙リスクの認知と喫煙行動との関連に関する実証データの収集と分析：昨年度までの大学生を対象とした喫煙リスクの認知と喫煙行動との関連に関する調査結果をもとに、今年度は20代～50代までの幅広い年齢層の一般市民を対象に、喫煙リスクの認知と喫煙行動との関連についてインターネットを通じたアンケート調査を行った。また、幅広い年齢層を対象にしたため、長期の喫煙行動による累積的なリスクの認知についても合わせて調査を行い、その喫煙行動との関

連や年齢及び喫煙歴による影響について分析を行った。これらの調査結果をもとに、喫煙リスクの認知を高めるための普及啓発手法などたばこ規制のための政策提言を3月末までに行う予定である。

②温暖化リスクの認知と温暖化防止行動との関連に関する実証データの収集と分析：昨年度までに、一般市民を対象としたインターネットを通じたアンケート調査を行い、個人の温暖化リスクなどに対する認知と温暖化防止行動との関連について分析を行い、地球温暖化防止のための普及啓発手法に関する提言を行った。今年度はこれらの結果をもとに、横浜市地球温暖化対策事業本部と協力して、横浜市金沢区をモデル地域とした区民アンケート調査を3月末までに行う予定である。このアンケート調査は無作為抽出した区民5000人を対象とした大規模なアンケート調査であり、温暖化リスクや横浜市の地球温暖化対策などに対する認知と温暖化対策への取り組みなどについての実態を把握し、モデル地域における有効な普及啓発手法に関する提言を行う予定である。

以上